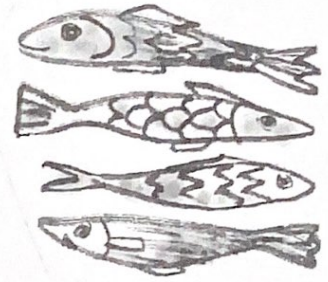


# 母塾

VOI-34 2020・2・25

新小岩幼稚園・未就園児クラス

illustrated by Kurumi



## 『小言をたたき売りしない』 猪之鼻 晴子

毎日忘れ物をしていく小学生の長男にこんこんとお説教をしました。

忘れ物の件から始まり、机が汚いこと、朝寝坊、妹をいじめること。

この際なので、座らせてとことん日頃の思いを伝えました。

話しているこちらは、だんだんと興奮してきます。「そういえば、あとは・・・」

次から次へと小言が湧いてきます。止まらない蛇口のようになります。

だんだんと意気揚々となっている自分がいます。

さて。「わかった？」と長男に訊くと、「うん。わかった」

「何がわかったの？」 「うーん。ボクがバカってこと」何も伝わっていません。

「ちょっと、急いでくれる？」 「だから、急いでくれる？」何度も根気よくくりかえします。

私ってなんて根気強いんだらう。「だから急いで！って何回言わせるの！」

最後は大きな声になっています。 きょんとしていた3才の三男。「ママ、イソグって何？」

最近では6人の子にたくさんのことを伝えなければいけないので、効率的になりました。

子どもに注意するには ① 短く ② わかる言葉で ③ 連発しない ことです。

ともすると「注意」は「小言」になり、たたき売りしてしまいます。

子どもは内容の前に「また、ママの長くてよくわからない小言タイムが始まった」と思います。

聞いていないし、理解していないのに「わかった」と返事をして嵐が通り過ぎるのを待つだけです。

小言のたたき売りはママのストレス発散になるならいいのですが、一方通行の会話なので

ストレスは溜まるだけです。そして小言は売れば売るほど、値打ちが下がります。

カッカしている時に小言のお店を開いても、全部売れ残ります。

今は売り時じゃないなとあきらめましょう。

その場ですぐにつかまえて教えなければ、というのも一般論です。

カッカしていない時に「あっさり」注意すると「すんなり」と聞いてくれるものです。

子どもにはちゃんとバレています。ママが何か気に入らなくて小言をぶつけているのか。

自分のしたことを良くしようと注意しているのかの違いが。

今もたまに次女が帰ってきたのを捕まえてくどくどと言ってしまいます。

またかという顔で「うん、うん。わかってる」と言う手はスマホをいじったままです。

これは全部在庫になるな。と早々に店じまいをしました。

harukoinohana1717gmail.com